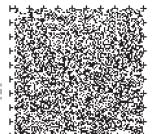


資料編1 地域の状況

八女市内21まちづくり団体の様子

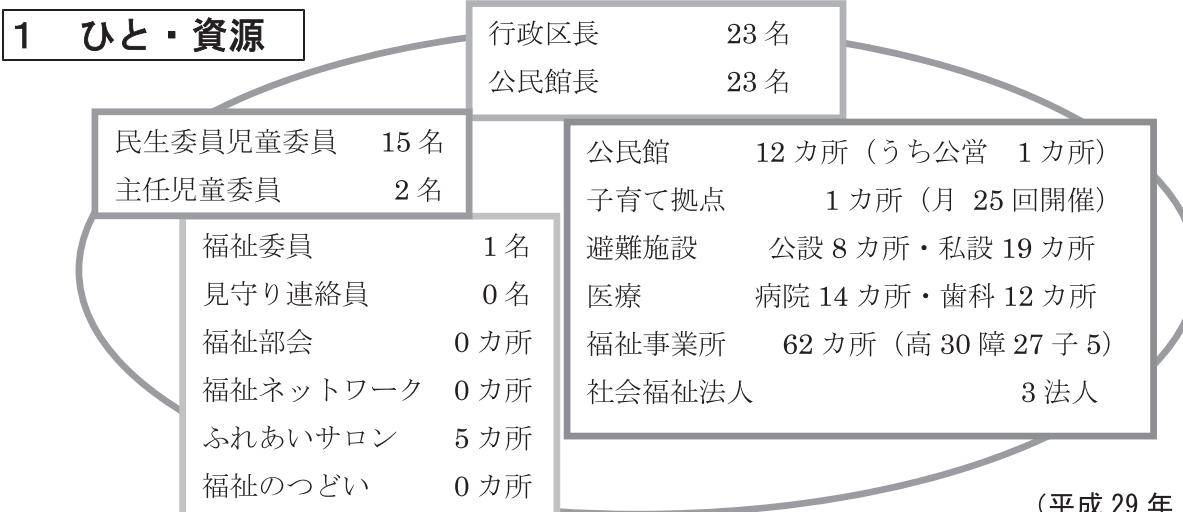
- ※「1 ひと・資源」の「子育て拠点」「社会福祉法人」は主な事務所がある地域や主な活動場所を基に掲載しました。
- ※「1 ひと・資源」の「福祉事業所」は一施設に複数のサービス事業所がある場合、そのサービス事業所の数で掲載しました。
- ※「2 地域の取り組み」は各地域の地域振興計画を参照し、掲載しています。また、地域振興計画における各地域のフレーズも併せて紹介しています。



福島地域

人口： 6,393 人（2,561 世帯）
・ 65 歳以上 1,873 人
（うち一人暮らし 490 世帯）
・ 18 歳以上 65 歳未満 3,407 人
・ 18 歳未満 1,113 人
(平成 29 年 4 月現在)

伝統文化と町並み風情を生かした 誰もが暮らしやすく にぎわいのあるまち



3 地域懇談会から

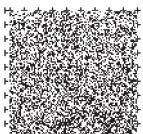
■ 地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 11 月 29 日 19 時～20 時半 参加者：29 名

■ 地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・ 伝統文化と風情を活かした「まちづくり」が活動目標。
- ・ 古くからの町屋が多くみられる本町と、新たに住宅・アパート等が建設され人口が増える本村。
- ・ 交流も少なめで近所づきあいが減っていると感じる。声かけしても元気のない方が心配。
- ・ 地域の神事や燈籠人形などの伝統行事や多世代で参加出来るグラウンドゴルフ、七夕まつりなどを各地で工夫を凝らして開催。
- ・ 子どもが少ない地域の廃品回収は地域で協力して実施。
- ・ 老人クラブが高齢化し、参加者が減っているのが悩み。敬老会も役員自体が敬老の年代。
- ・ ふれあいサロンは参加者に好評であり、継続していきたい。男性が参加しやすい工夫をしている地域もある。ただし、世話ををする人が少なくなり、担い手づくりが課題。
- ・ 隣組単位で行っていた行事も少なくなり、高齢者も子どもも忙しくてまちを歩いて人と会わなくなった。顔を合わせる機会が少ないので、町内活動の話もしにくい。
 - ・ 町費は払っても町内行事に参加しないという人も増えている。



2 地域のとりくみ

■福島地区まちづくり協議会

○活動の拠点施設：おりなすハ女研修棟

行政区長会	自治公民館長会	民生委員児童委員連絡協議会
やめ女性の会	老人クラブ	子ども会育成会
消防団第1分団	福島小学校PTA	福島中学校PTA

■福島地区地域振興計画

【平成29年3月】

基本方針	主要施策
I 安全で快適な生活空間の創造をめざすまちづくり	(1) 河川・水路・堀等の環境保全の推進 (2) 道路環境の改善 (3) 公園の整備促進
II 歴史文化や町並みなどの、地域資源を活かした活気のあるまちづくり	(1) 町並みの継承と発展 (2) 空き店舗、空き家対策 (3) 伝統産業の継承発展
III 誰もが安全・安心で、支え合い助け合いができるまちづくり	(1) ふるさと夏祭りの継承・発展 (2) 多世代交流イベントの企画・実施 (3) 地域づくり人材育成事業 (4) 一人暮らしの高齢者支援

地域を支える人の様子

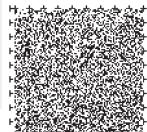
- ・民生委員の仕事は大変といわれている。実際してみるとそうでもない。民生委員のイメージを変えてほしい。民生委員の役目は、「地域と市をつなげる」こと。これから民生委員になる人には「大変なことばかりではない。民生委員をして良かったと思うことは沢山ある。」と伝えたい。
- ・民生委員のなり手探しがとても大変。民生委員が活動しやすいように、制度の見直しをしてほしい。
- ・民生委員は責任をどうしても感じてしまう。完全なボランティアとして、元気な高齢者を中心にお年寄り世帯を見て回る「見守り隊」を地域でつくってみてもいいのでは。
- ・民生委員、福祉委員のみならず、普段から「隣組単位」で声かけ合い、問題が浮上すれば、区長へ連絡する体制（手段）を整えていく。
- ・まずは民生委員と隣組長が連携すること。年に一度くらい、区長と民生委員が困り事の共有や情報交換をするなど交流の場をもつといい。
- ・新しい店等ができ、交通量がすごく増えた。道を渡れないおばあさんに声をかけ、一緒に渡る小学生を見かけて、嬉しくなった。

地域の課題

- ・高齢者は訪問を心待ちにされていたり、不燃物のゴミ出しなどちょっとしたお手伝いでとても喜ばれたり、緊急連絡先を聞いていたため助けられたり。民生委員等も声かけや訪問しているが、もっと「向こう三軒両隣」の気持ちで隣組なども動けたら助かるのではないか。
- ・マンションや戸建てに新たな入居者が増え、Uターン世代家族も転入してきてはいるが「町内の行事等に参加しないことを条件に入居」している家庭が増加していることが心配。

地域のこれから

- ・いろいろな人が見守り出来る様に、見守りや話し相手などで参加出来る地域づくりが必要。
- ・災害発生時にどこまで民生委員一人で対応出来るか不安。普段から町内や隣組でどう対応するか考えておく必要がある。それそれが気にかけるような雰囲気づくりが大切。



長峰地域

人口： 6,185 人（2,361世帯）

・65歳以上 1,625 人

（うち一人暮らし 363 世帯）

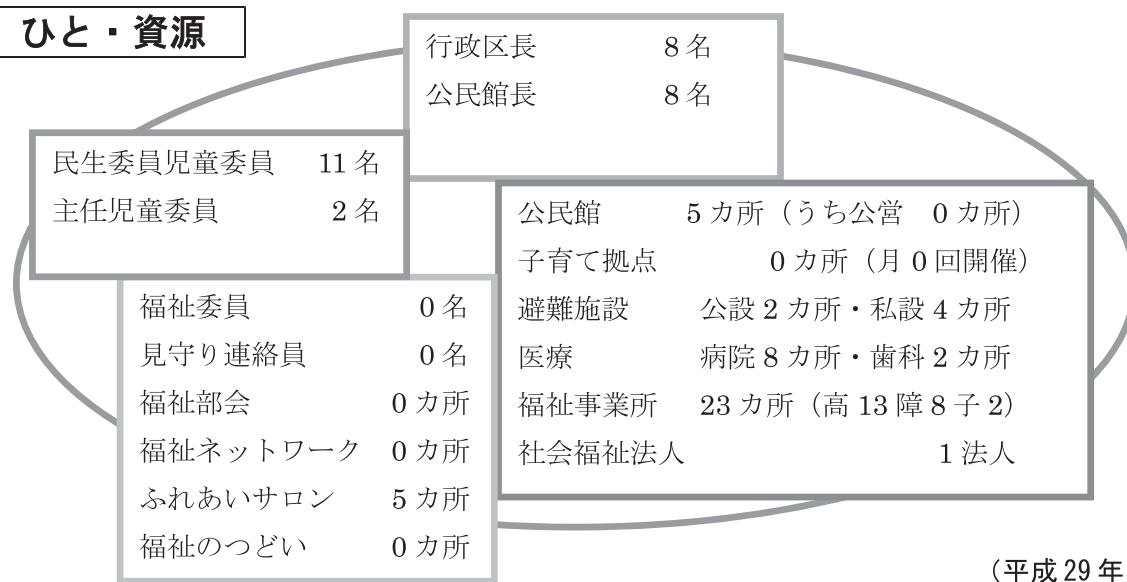
・18歳以上 65歳未満 3,420 人

・18歳未満 1,140 人

（平成 29 年 4 月現在）

史跡と共に存する田園都市　自然と歴史と人々が共生し、
うるおいと活気のあるまちづくり

1 ひと・資源



（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 29 年 2 月 25 日 16 時～18 時 参加者：44 名

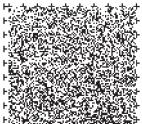
■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・地域活動が活発になることで、地域が伸び、安心感も得られると感じている。
- ・サロンボランティア婦人部の立ち上げは、地域の活性化につながっている。サロンだけではなく災害、火事等が発生した時の対応や炊き出し、しめ縄作りへの参加等様々な活動を行っている。後継者を作っていくためにも色々な方を巻き込み、無理のない活動をしていくことが必要である。
- ・小学生の登下校見守り活動を始めて 3 年。当初から比べても子どもたちが声を出して、あいさつするようになり、明るくなったと感じる。

地域を支える人の様子

- ・民生委員の見守りだけでなく、隣組単位でお互いを知り合い、近所の人たちが見守る事が大事ではないか。
 - ・個人情報等、地域で共有したい情報はあるが、どこまで共有していいのかわからない。
 - ・災害時、火事の際等には隣組のつながりを実感する。特に消防や行政が駆け付けるより先に頼りになるのは近所の助け合い。近所づき合いを今一度見直して、お互いの助け合い（共助）を強化したい。



2 地域のとりくみ

■長峰校区まちづくり連絡協議会

○活動の拠点施設：吉田公民館

行政区長会	公民館長会	青少年健全育成会	長寿会	子ども会育成会
民生委員児童委員連絡協議会	消防団第2分団	人権擁護委員	交通安全協会	長峰小学校PTA
福島中学校PTA	福島中学校	長峰小学校	福島高校	八女警察署(福島交番)
JA北支店	JA女性部	婦人会		

■長峰校区地域振興計画

【平成29年3月】

基本目標	主要施策（協働を主に抜粋）
I 安全・安心で地域がつながるまちづくり	○防災対策（河川・丘陵地の整備、自主防災組織の円滑な運営） ○防犯対策（街灯（防犯灯）の整備、犯罪被害防止啓発活動ほか） ○交通安全対策（交通安全啓発活動、交通安全自主活動ほか）
II 誰もが支え合いふれあえるまちづくり	○高齢者支援（高齢者支援活動、居場所づくり活動ほか） ○子育て支援（健全育成推進活動、地域で支える子どもの成長支援ほか） ○健康推進（健康づくりと予防活動） ○地域コミュニティ育成（校区ふれあい事業ほか）
III 住み良く生き生きとした元気なまちづくり	○農業振興（耕作放棄地・遊休農地等の活用、農業後継者の育成ほか） ○交通対策（八女市乗り合いタクシーの利用推進、小地域での送迎活動） ○定住化支援（八女の定住支援事業の周知） ○生活環境対策（悪臭・騒音への対応）
IV 自然・環境を育むまちづくり	○自然環境保全（自然を大切にする意識活動、不法投棄等の防止活動ほか） ○空き家・空き地対策（空き家・空き地問題に対する啓発推進ほか）
V 史跡や歴史を資源として、特徴ある文化を作り出すまちづくり	○伝統行事・地域行事継承（歴史・伝統行事を伝える意識の向上ほか） ○史跡保全・観光推進（観光資源としての活用）

地域の課題

- ・町内会に未加入の方も数軒ある。入るメリット、デメリットをきちんと説明する必要がある。
- ・前までは向こう三軒両隣で近所づきあいも活発だったが、今は横のつながりが希薄に。
- ・いろいろな行事を行っているが、参加できない人、しない人が地域から孤立していくのではないかと心配。来られない人をどう誘うかが課題である。
- ・地域に様々な組織があるが、衰退しているので、その活動支援も必要。何でもしてもらうではなく、自分たちで取り組む意識も大切。

地域のこれから

- ・ますます地域のつながりが大事になる。行政やボランティア、地域の団体が協力していく必要がある。
役所任せではなく、情報を発信し、いろんな人に協力を願いする。
- ・日頃から情報共有が出来て横の連携が取れていると、災害時などすぐに対応出来るように感じる。
- ・隣近所の声のかけ合い、あいさつは非常に大事。最近は一人の地域のリーダーが決定していくという地域づくりではなく、住民相互の対話が大事な時代になっている。隣組長も輪番ではあるが、身边に取り組めることから実践することが大事。
- ・長峰小学校でコミュニティースクールの取り組みが始まった。地域の意見が学校教育に反映され、地域と共に子どもたちを育てる取り組みには、地域の力や責任が強く表れる。
共に学校を良くする取り組みを考えいかなければならない。



上妻地域

人口： 6,400 人 (2,477 世帯)

・ 65 歳以上 1,815 人

(うち一人暮らし 406 世帯)

・ 18 歳以上 65 歳未満 3,496 人

・ 18 歳未満 1,089 人

(平成 29 年 4 月現在)

自然・伝統と共生するまち上妻

1 ひと・資源

行政区長	10 名
公民館長	10 名
民生委員児童委員	11 名
主任児童委員	2 名
福祉委員	0 名
見守り連絡員	0 名
福祉部会	0 カ所
福祉ネットワーク	0 カ所
ふれあいサロン	6 カ所
福祉のつどい	1 カ所
公民館	7 カ所 (うち公営 0 カ所)
子育て拠点	0 カ所 (月 0 回開催)
避難施設	公設 4 カ所・私設 12 カ所
医療	病院 6 カ所・歯科 7 カ所
福祉事業所	25 カ所 (高 11 障 11 子 3)
社会福祉法人	0 法人

(平成 29 年 10 月現在)

3 地域懇談会から

■ 地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 11 月 18 日 19 時～21 時 参加者：27 名

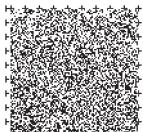
■ 地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- 各地域で祭りなどいろいろ行事があり、年寄りや若い人が一緒に集まるいい機会になっている。行事を通して結束力も強まっていると感じる。
- 地域で毎朝体操をやっていて、この場でコミュニケーションがとれている。また、いつも参加している人が来ないときはそのあととの声かけや訪問を行って見守りにもなっている。
- 地域でも地元居住者が多い地域では、それなりの近所づきあいがあるが、差異がある。
- 子ども会主催で祭りを開催しているが、若い人と会う機会になるし、若い人の参加が多い。まつりは、地域力につながる。色々な催しに参加してもらうことが良い。顔合わせになる。
- 上妻小学校の子どもは車で道を譲るとよくあいさつをする。その様子は下級生へ受け継がれていくのでいいことである。

地域を支える人の様子

- 地域の見守り活動として、児童の登下校時間に合わせて散歩してもらうなどの協力依頼を行っている。今後も実施していきたいと考えている。
 - 隣組長が月 2 回、広報紙配りのとき必ず声かけて手渡ししている。郵便受けに郵便物が溜まっていたら何かあるのでは? と感じる。特に独居の高齢者への声かけは大切。



2 地域のとりくみ

■上妻校区まちづくり協議会

○活動の拠点施設：上妻小学校ミーティングルームほか

行政区長会	自治公民館長会	民生委員児童委員連絡協議会	青少年健全育成会	老人クラブ連合会
婦人会	子ども会育成会	消防団第3分団	上妻小学校PTA	南中学校PTA
交通安全協会上妻支部	上妻よらんかい	防犯協会上妻支部	個人	

■上妻校区地域振興計画

【平成29年3月】

基本目標	主要施策（協働を主に抜粋）
I 豊かな自然と美化で 癒されるまち	○自然・景観（環境衛生）（環境教育の推進、啓発・モラル向上の取り組みほか） ○道路、河川愛護・耕作放棄地（自然環境美化保全活動ほか）
II 暮らしと健康・福祉が 充実したまち	○暮らし（買い物・交通・健康）（買い物・通院等の支援、八女市乗り合いタクシーの積極的推進と利用、健康教室・介護予防講習会の開催ほか） ○高齢者対策（高齢者の日常生活支援ほか） ○子育て支援（地域で支えていく子どもの成長支援ほか）
III 備えと地域連携で安 全・安心なまち	○防災・防犯（自主防災組織の機能強化、犯罪予防及び抑制活動ほか） ○交通安全（交通安全教室の開催ほか） ○空き家（空き家問題に対する意識の醸成と啓発活動ほか）
IV 伝統文化や住民のつ ながりを大切にするまち	○コミュニティ（人・地域行事・集落施設）（上妻まつりの充実ほか） ○歴史文化・伝統行事（歴史・伝統文化を守り伝える活動ほか）

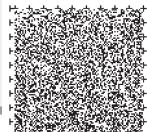
- ・個人情報の取り扱いが厳しくなってから、一般家庭に入りづらくなってきた。

地域の課題

- ・長く住んでいる人と新しく転入された方とどう交流を図っていくかが課題である。
- ・以前に比べ地域のつながりが希薄化している。今の家は家の周りをかこって入りづらい状況がある。昔は隣組のつきあいがあったが、今では個だけのつきあいになっている。人口減少や高齢化も進んでいる。
- ・公民館を避難場所にした場合、そこまでの道のりが危険なところがある。水害だった場合、公民館は水没してしまう行政区もある。避難所は地元に設置すべきだと思うが場所が見つからない。
- ・災害防災対策について、確認しなくてはならないと感じている。

地域のこれから

- ・訪問は一人では続かないで広く人材を分担・役割を分けると一人の負担が減る。
- ・手をさしのべようと思っても、心を開いてもらうまでに時間がかかる。支援してもらう方も受け入れる力が必要。若いときから力をつけておくことも大切。
- ・近所づきあいはあいさつから。声かけからはじめると大分違ってきてそこから親しくなる。しかし、どこまで入り込んでいいのか難しさを感じる。
- ・今後も「回覧板」を手段に、見守り訪問活動に取り組み、何かあれば区長さんから民生委員につなげるなど見守る組織を強化していきたい。
- ・子どもの見守り隊はあるが、お年寄りの見守り隊をつくるべき。
- ・支援をしてもらう方も受け入れる力を若い時からつけておく必要がある。
- ・災害に備え、避難場所や災害対策を確認しなければならない。



三河地域

人口： 3,477 人（1,277 世帯）

・65 歳以上 1,091 人

（うち一人暮らし 178 世帯）

・18 歳以上 65 歳未満 1,823 人

・18 歳未満 563 人

（平成 29 年 4 月現在）

自然と人にやさしく 安全・安心なまちづくり～人と自然がとけあうまち 三河～

1 ひと・資源

行政区長	9 名
公民館長	9 名
民生委員児童委員	8 名
主任児童委員	2 名
福祉委員	0 名
見守り連絡員	0 名
福祉部会	0 カ所
福祉ネットワーク	0 カ所
ふれあいサロン	2 カ所
福祉のつどい	0 カ所
公民館	7 カ所（うち公営 0 カ所）
子育て拠点	0 カ所（月 0 回開催）
避難施設	公設 2 カ所・私設 6 カ所
医療	病院 4 カ所・歯科 2 カ所
福祉事業所	10 カ所（高 5 障 3 子 2）
社会福祉法人	0 法人

（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 11 月 18 日 19 時～21 時 参加者：29 名

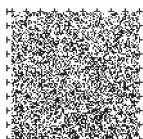
■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・お墓掃除を毎月しており、交流も出来るし、安否も確認できる。
- ・行事の開催時間を参加しやすい時間帯に変更したことによって子どもの参加が増えた。
- ・畠仕事が好きな高齢者が近所にいるが、苗ものを買ってきてと頼まれたら買ってきたり、畠を耕したりしている。地域の人で気軽に頼める間柄になっている。

地域を支えるひとの様子

- ・民生委員が複数行政区を担当している場合、自分の住む行政区以外のことは対象者も家もわからぬことが多い。訪問時など、各々の区長に立ち会ってもらうのも一つの案だと思う。
- ・以前は住民の人々とのつきあいは少なかったが、民生委員になって行政区の祭りなどに積極的に参加するようになり情報を収集出来るが、高齢者や子ども以外との関わりが少ないのが課題。福祉の充実のためには、高齢者だけでなく子どもたちも含めた活動の充実が良いのではないか。
 - ・福祉活動を充実させるには、「根気」が一番必要。これをなくしては、充実できない。根気づよく、関わりを持とうとする姿勢が大切。



2 地域のとりくみ

■三河校区まちづくり協議会

行政区長会	自治公民館長会	民生委員児童委員連絡協議会
三河小学校 PTA	南中学校 PTA	青少年健全育成協議会・安全対策会議
老人クラブ	消防団第4分団	交通安全協議会

○活動の拠点施設：共生の森ほか

■三河校区地域振興計画

【平成28年3月】

基本目標	主要施策（協働を主に抜粋）
I 自然と伝統との共生を活かしたまちづくり	○住民主体の清掃・美化活動 ○不法投棄パトロール隊の設置 ○歴史・文化の継承啓発講座 ○史跡等の案内板とマップ作製ほか
II 安全で安心して暮らせる豊かなまちづくり	○安全・安心対策（防犯灯・カメラ、防犯講習会ほか） ○健康対策（特定検診受診率向上、健康講座、食育講習会ほか） ○少子化（子育て）対策（開かれた保育園・学校・地域行事、子育て世代への支援ほか） ○高齢者・福祉対策（いきいきサロンの充実、「向こう三軒両隣」小さな親切運動ほか）
III 人と人との繋がりを豊かにするまちづくり	○人と地域力の向上（地域コミュニティ充実のための多目的広場などの整備ほか） ○あいさつ運動ほか
IV 産業の充実で若い人が集まるまちづくり	○集落営農組織の再構築支援協力 ○農地保全と利活用対策 ○担い手の育成 ○高齢者と女性が元気で輝く地産地消の推進ほか

地域の課題

- ・三河校区には女性の行政区長がない。複数の女性に入ってもらい男女バランスがとれるといろいろな気づきが増え、話し合いも活発になると思う。
- ・今の子どもたちがもっと“はつらつ”になると、近所づきあいが増えるきっかけに。生徒数が減れば、学校の統廃合が進み、引っ越し家庭も増え、近所づきあいがさらに減るのが心配。
- ・家族が仕事にてて、日中一人で過ごしている高齢の方の見守り。気にはなるが声をかけにくい。付き合いが薄いのかなど感じる。
- ・人の入れ替わりが少ないので、昔からのつきあいで揉め事は少ない。しかし、関係性は昔に比べると希薄になりつつある。

地域のこれから

- ・農家の空いた土地を非農家の方に貸し、農家の方が野菜の作り方や肥料のことなど教えたりして交流の場とするのもいいと思う。
- ・町内行事を継続していくことも必要。参加しやすい時間帯も考えて行く必要がある。
- ・若い世代との関わりが少ないのでもう少し交流できたらと思う。
- ・一人暮らしの方には民生委員が訪問しているが、複数の行政区を担当していると負担が大きいと思う。民生委員をカバーし、補助する制度があるといい。
- ・学校だけではなく、地域で子どもたちに何か教える場が必要ではないか。
- ・一人暮らしの人にとっては移動販売があると良いと思う反面、地域によっては一人暮らしのが少ない所もあるので、移動販売が来ても買う人がいないかもしれない。

